
答えてください

新辺カコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

答えてください

【Nコード】

N2197W

【作者名】

新辺カコ

【あらすじ】

ハーブティーと失恋と。今回そんなお話。

「お姉ちゃん、いつもの煎れて」

『いつもの』とはその日の気分でブレンドしたハーブティー。もちろんお菓子も忘れずに。

ティーポットの中は花畑。淡いむらさきと鮮やかな黄色にモスグリーンのアクセント。

美味しいか不味いかは、半分バクチだ。

カップはふたつ。

暑がりの妹は、冬でも冷たいものを飲むから。ひとつは氷たっぷり。

お湯を注ぐと、ふわりといい香り。甘く優しく、華やかな、カナリア色のハーブティー。

「あっ、おいしーい。今日のは何？ ちょっとスーッとする」

「カモミールにラベンダー。少しペパーミント入り」

素っ気ない返事で、私も一口いただきます。

うん、美味しい。

飲みやすいのはカモミールのおかげだろう。

「もう一杯、ちょうだいね」

風呂上がりの、ちよつとしたティータイム。

不意に、妹がつぶやいた。

「『洗う』……か」

「？」

「同じゼミの子が言ってたの。ラベンダーの語源。ラテン語で『洗う』って意味。大昔に、入浴剤に使ってたんだって」

妹はそう言ってお菓子を口に放り込み、二杯目のお茶をがぶりと飲み干した。

顔が、赤い。恐らく『ゼミの子』は気になる男の子なんだろう。

数日後、また妹のリクエスト。

「お姉ちゃん、熱いハーブティー煎れて。……ラベンダーだけの」正直、ちょっと戸惑った。彼女が熱いものを飲むのは珍しいし、何よりラベンダーだけなんて苦くてまともに飲めたものじゃない。

「ちょっと、濃くしてね」

妹の言葉は、少し湿っぽかった。

時間をかけて、ポットをガサガサかき混ぜる。一種類だから、本当はなくていいけれど。出来上がった華やかな色と香りのそれは、口に運ぶと人を選ぶ味で。

「……苦いね。やっぱり」

「作り直す？」

妹は首を振り、熱いお茶を一息に飲み干し、そして一言「別れちゃった」と呟き、それっきり黙りこくってしまった。

泣いていたのか、目が赤い。

『私に答えてください』

ぼんやりとラベンダーの花言葉を思い出した。考えてみれば、とても切ない。

愛は、必ずしも望んだ答えを出すわけではない。人は愛してくれる者を同じくらい愛するとは限らないのだから。

恋愛なんて、このお茶のようなものかもしれない。綺麗な色で、いい香り。でも口に含めば苦くって。

「別の、煎れようか。お菓子も一緒に、ね？」

妹にとって、いつかはいい思い出になってくれるのを願い、戸棚へと向かった。

傷が癒えて、気軽に話せるようになればそのときはきっと、今の気持ち、

『私に答えてください』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2197w/>

教えてください

2011年10月9日14時33分発行